

寿の都の 爽やかな風のなかで

会員・会友の皆様におかれましては新しき年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。お正月に沢山の「寿」という文字に目にしていることと思います。何とも喜ばしく嬉しく幸せを連想させる文字です。この「寿」に係わる話に少しお付き合いください。

現在、リージョナルステート研究会は、自然科学教育分科会、循環技術システム研究分科会、地域主権分科会で活動をしています。今回は、私の参加している自然科学教育分科会での活動を紹介します。

北海道に「寿(ことぶき)」の「都(みやこ)」と記して寿都(すつ)という町があります。日本海に面した人口3,500人位の町ですが、昨年一年間に延べ50名に近い技術士会の関係者がこの町を訪れ、子ども達への「出前授業」に取り組んでいます。

この活動は、2003年(平成15年度)の寿都町教育委員会主催の「探検！発見！ぼくらのふるさと」に参加したことに始まります。翌年度からは夏休みでの「自然体験キャンプ(2泊3日)」に様変わりし、その後半での自然体験学習を担当しています。春と秋には小学校低学年も参加できる「サツマイモ」の学習と植え付けおよび収穫を企画して5年目を迎えています。また、文科省の理科支援員等配置事業の特別授業として二つ小学校で5、6年生を対象に正規の時間で授業を受け持っています。この特別授業は今年度で3年目を迎え、文科省事業としては廃止になりましたが、寿都町の事業として継続されています。授業の後に校長先生からも「児童を川の中に入れて授業を行うということは、学校ではとても思い付かないこと」との評価もいただき、「来年度もよろしくお願い致します」との期待も寄せられています。

最近、プロボノという言葉を目にしたことがある

北越正生(きたこし まさお)
技術士(建設/総合技術監理部門)

(社)日本技術士会北海道支部
リージョナルステート研究会代表



と思います。社会人が仕事を通じて培った知識やスキル、経験やノウハウを活かして社会貢献することを意味しています。私たちの活動は、教育委員会や学校と一緒に自分たちの培った知識や経験を活かして授業づくりに取り組んでいる、まさにプロボノと呼ばれるのに相応しい活動となっています。

授業づくりのため現地に出向き教材を探したり、繰り返し実験して工夫や改良を重ねたり、出来る限りの準備をして臨んでいます。それでも当日、児童を前にしてハラハラ、ドキドキし、思い描いた進め方が出来ないことや児童の反応を見ながら一方的にならないように気を使いながら、素人先生の苦労を味わっています。しかし、野外での体験や実験などを授業に取り入れ、そのなかで自分たちの知識や経験を十分に活かすことで役割を果たしています。

このように試行錯誤を繰り返した準備、汗を流した授業、児童の笑顔や驚嘆に出会い、そして「ありがとうございました」の言葉に送られて帰路につきます。ふと振り返ったときに達成感や充実感と一緒に大きな喜びが満ちてきて、心のなかに爽やかな風が吹いていることに気が付きます。そんな寿の都の爽やかな風のなかで若い技術者たちも素晴らしい体験を積み重ねて、頼もしく育っています。

余談になりますが、私も寿都小学校に3～5年生と在籍しており、活動を通じ先輩や同級生に再会し、仲良くお付き合いしています。最近では、『ただいま』と訪れ、『お帰り、待ってたよ』と、故郷のような温かさで迎えていただいています。いつまでも『ただいま』、『お帰り、待ってたよ』と交わされるよう“今年も爽やかに★を！！”を合言葉にしています。《注：★のところには「汗」という文字が一番合いそうですが、ご想像にお任せします。》